



センターだより

令和5年3月 第135号

島根県教育センター
https://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/

島根県教育センター浜田教育センター
https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/kikan/hamada_ec/

「対話的な学び」についての一考察 ～「先哲との対話」とは？～

授業改善の取組を活性化していく視点として「主体的・対話的で深い学び」が位置付けられてから久しい。

文科省のイメージ図の中で「アクティブ・ラーニング」「キャリア・パスポート」などのいわゆるキラキラワードに混じって「対話的な学び」の中に、本を読むという活動、さらに「先哲」という古風で魅力的な言葉まで入ってきたことを国語教員の一人としてとても嬉しく思ったことをよく覚えている。恐らく、思いを持ってこの言葉を強く推した方がいるのだろうと勝手に推察している。

読書を通じて行われる対話とはどのようなものだろうか。

評論については、内容を頭の中で整理・構築していかないと読み進めることができない。これは、言葉を一つ一つ受け取りながら積み上げていく作業なので対話といってよいだろうし、「確かにそうだ」「本当にそう言えるのか」など頭の中でツッコミを入れていくことは対話の構図そのものである。

一方、小説については、面白さのあまり時間の経過を忘れて作品世界に没頭するということがある。確かにこの状態は対話しているようには感じられない。しかし、本を閉じてから、印象的な場面を反芻しつつ自分の体験に重ねたり、主題について思索を深めたりする時間がやってくる。これが小説における対話ということになるのだろう。

いずれにしても、自分が読まなければ、作者は何も語ってくれないのだから、読書は文字を媒介とした作者と読者の協働的かつ双方向の営みであることは間違いない。読書が「対話的学び」のカテゴリに入っており、自己の考えを広げ深めることをねらいとしている意味を改めて思い知らされる。

国語教員である自分は「読書の営業マン」と考えて今まで指導してきたが、残念ながら営業成績が伸びないのが実情である。もちろん、「読書大好き！」という熱烈的な「固定客」は確かに存在しており、一日に何度も図書館に足を運ぶという子どももいる。しかし、数多くのメディアが存在する現代において、本の立ち位置は決して安泰ではない。

拙稿を書くために、「読書」を辞書で引いてみたところ、「寝ころがって漫画本を見たり、電車の中で週刊誌を読んだりすることは、本来の読書には含まれない（『新明解国語辞典』）」という記述を見つけた（「新解さんもなかなか厳しいですねえ」という対話が発生）。また「先哲」というからには軽めの本ではなく、一定のクオリティを求めたいという向きもあるだろう。

ただ、きっかけはどうあれ、子どもが本を手取る習慣付けができれば、作者との対話をするようになり、自ずと深い思考につながる素地が作られていく。国語の先生方は、おそらくこの「先哲との対話」をとりわけ好んだがゆえに現在の仕事に就いておられるのであり、このことを体験的によくご存知のはずである。

高等学校学習指導要領の「国語科の目標」では、国語の資質・能力は生涯にわたるものであるという旨の記述が何度も繰り返されている。とすれば、時間がかかっても、作者と対話できる子どもを長い目で育成していくことは、きわめて重要な国語科の使命といってよいのではないだろうか。

ペアワークやグループ協議に加え、「先哲との対話」を軸とした授業に自分もチャレンジしたいと思っています（同志の皆さん、ぜひ情報交換しながらやってみませんか？）。

中学校理科教育オンライン講座（新） ・ 中学校理科教育講座

本県では、中学生の理数探究心の高揚を図り、高校段階において理系選択が可能な学力と関心が高まるよう、理数教員の授業力のさらなる向上を目指しています。理科教育に係る講座では、今年度より「中学校理科教育オンライン講座」を新設しました。全4回（すべて15時15分から16時45分までの90分）の研修では、短時間でしたが受講者同士が対話を通して授業を構想できる時間を設けました。受講者の感想を紹介します。

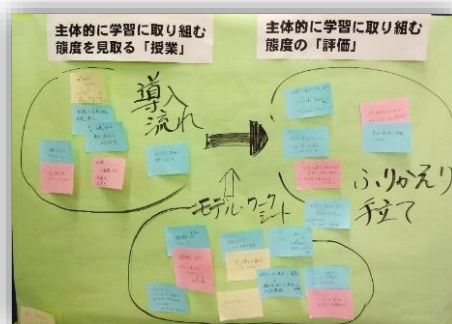
導入は人それぞれで、聞いていて面白かったです。どうしても評価のための授業やテストとなっているので少しずつ改善できるといいなと思いました。

子どもの思考をより働かせるための手立てや方法を、参加した方々と共有することで、資質・能力を育む授業づくりをすることができた。

「中学校理科教育講座」は、「主体的に学習に取り組む態度を見取る理科の授業づくり」をテーマに実施しました。生徒の学びを見取るために、どのような授業を行う必要があるのか、どのように生徒の姿を見取るのかについて語り合いました。受講者の感想を紹介します。

実際の授業を見ることで、どのような工夫をするとよいか、生徒の反応がどのようなものかを確認して授業づくりを行うことができました。また、同じ教科の先生方と疑問点について話し合ったり、同じ課題を共有したりすることができました。今後の授業づくりのアイデアを多く見つけることができました。

「主体的に学習に取り組む態度」を評価する授業、そしてその方法について自分なりに理解することができました。授業での子どもたちの楽しそうに探究する姿が非常に印象に残っています。こんな姿を自分も生み出してあげたいと感じました。また、実際に「主体的に学習に取り組む態度」を見取る授業を設定するなら…と考えたことで、具体的にこんなところで設定しようというビジョンが見えました。



次年度も、生徒の理数探究心が高まる授業の在り方について、先生方と一緒に考えていきたいと思えます。講座への参加をお待ちしています。

小学校道徳教育講座

今年度は「主体的・対話的で深い学び」を実現する道徳の授業づくりのポイント及び評価の在り方についての理解を深め、授業力を高めることを目標として開催しました。

講師に畿央大学教授の島恒生氏を招き、講義と演習を通して、発達の段階や内容の視点を大切にした「考え、議論する道徳」の授業のポイントを教えていただきました。演習では、2つの資料を使って、グループで中心発問を考えたり、中心発問に対する児童の反応を考えたりしました。そして、各グループの代表意見をホワイトボードに全て貼った後に、島先生から指導・助言をいただき、受講者は中心発問を考える際の視点を得ることができました。最後に受講者の日頃の道徳授業の悩みに対して、島先生が具体的に答えていただく時間も設けました。事後アンケートから受講者の満足度が非常に高かったことが窺えました。



～受講者の感想から～

- ・ 中心発問の言葉一つで子どもから引き出したいねらいに近づく意見が導き出せることを改めて知った。めあてや発問をねらいに沿ったものとなるよう吟味したい。
- ・ 普段の声かけから道徳的価値について考え、教育活動全体から道徳教育に取り組むことのイメージを持つことができた。

お知らせ

5月開催

令和5年度 島根県教育センター教育研究発表会

島根県教育センターでは、教職員の皆様の参考になり、教育課題の解決の一助となることを目指し、調査・研究活動に取り組んでいます。この研究の成果を発信する場として、「全ての子どもの学びを保障する学校づくり」というテーマで令和5年度教育研究発表会を予定しています。これらの内容が、各校の教育実践の充実につながることを切に願っています。

島根県教育センター教育研究発表会【オンライン開催】

《第1部》【オンデマンド配信】 研究・研修成果発表

配信期間 5月12日(金)～5月31日(水)

指導主事(共同)の研究発表、長期研修員の研修成果発表

《第2部》【オンライン配信】 講演

開催日時 5月20日(土) 13:30～16:00(予定)

[講演] 「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくるために」

～「子どもを育てる学校」から「子どもが育つ学校」に～

木村 泰子氏(大阪市立大空小学校 初代校長)

※本発表会の参加をもって、管理職セレクト研修、フォローアップ研修(2年目)とすることができます。

お知らせ

令和5年4月1日 島根県教育センター ホームページ リニューアル
研修情報システム スタート



島根県教育センターは、このたびホームページのリニューアルを行うこととなりました。

現在は島根県教育センターと浜田教育センターを別サイトで運用していますが、リニューアルに合わせて統合し、より使いやすく、必要な情報にアクセスしやすいように改良しています。また、教育センターの取り組みや研究・研修情報、教育相談、特別支援教育などの情報を掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

なお、これまで教職員研修に関するすべての情報をホームページにてご案内しておりましたが、令和5年4月からは、申し込みから受講履歴に至るまで一元管理する「研修情報システム」へと移行します。教職員研修に関することとそれ以外の情報を分けてご案内することにより、教職員の皆様方にとって、また、県民の皆様方にとって今まで以上に使いやすく、より役立つ情報を提供できるよう、引き続き改善に向けて進めてまいります。



※OJT研修 日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修
Off-JT研修 日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修

特別支援学級の授業づくりに役立つHP資料を作成しました！

特別支援教育セクションでは、昨年度から『特別支援学級の授業づくりを支える教育センターにおける支援の在り方』というテーマで研究に取り組んでいます。その成果物として、ホームページ資料を作成しました。「子どもの実態に合った」特別支援学級の魅力的な授業づくりのお役に立てることと思います。ホームページ「特別支援教育のページ」よりダウンロードできます。ぜひご活用ください。

Go!Go! 授業づくりシート 各教科用 記入例 (特長 OS 知的・算数・一人在籍)

(教科名)	算数	(領域・単元名)	A 数と計算
-------	----	----------	--------

【① 指導内容】
 教科書：さんすう少女の P17 「大きな数のかきかた」
 ・十進法位取り記数法
 ・21 以上の数の大きさや読み書き

【② 児童生徒の実態】
 これまでの数
 ・知覚障がい特別支援学校小学部3段階
 算・領域に関する
 ・20までの数で、数詞を覚え、数数を数えたり
 する数
 ・10の倍数を考える時、律を使って考えること
 ・20までの数で数値だけで大小を比較する時、
 ・10のまとまりを作って数えることまで学習して

【③ 単元(題材)のねらい(知・思・学)の観点と
 ねらい
 ・2位数は、10のまとまりと増減という考え方を
 (知・数)
 ・10のまとまりを認識しながら、数の数え方と表し方を考えとす。(思・表)
 ・数を数えたり数で表したりすることに慣れる。身近なものを数えたり数で表したり
 して(学)

【手立て】
 ・操作しながら考えるために位取り棒と数直線アプレットを使用する。
 ・絵を使いながら構造的な言葉で順序立てて語る。

Go!Go!授業づくりシート
 特別支援学級の授業づくりで大切にしたいポイントを意識し
 考えを整理しながら授業の計画を立てることのできるシートです。
 「各教科」「各教科等を合わせた指導」「自立活動」の 3種類。
 記入のポイント、授業例付き！

算数・数学 小学部3段階 A数と計算 (一部抜粋)

学習指導要領の主な内容	☆本の解説から抜粋した各題材の指導内容
小学部 3段階	小学部 3段階
ア 100までの数数の表し方	☆本の解説から抜粋した各題材の指導内容
(ア)知識及び技能 ① 20までの数について、数詞を覚えたり個数を 数えたり書き表したり、数の大小を比べたりするこ と。 ② 100までの数について、数詞を覚えたり個数を 数えたり書き表したり、数の系列を理解したりするこ と。 ③ 数える対象を2ずつや3ずつのまとまりで数える こと。 ④ 数を10のまとまりと比べて数えたり10のまとまり 毎に分けて数えたり書き表したりすること。 ⑤ 具体物を分けたり分けたりすること。	【20までの数】 ○11～20までの数え方 (P5) ○10のまとまりと、「そのほかにあといくつ」と分け ること (P6) ○「じゅう (いくつ) (20の場合は「にじゅう (い かつ)) という名称 (P7) ○バラバラな具体物を「10と残りのいくつ」に分ける →「じゅう (いくつ) 個」「にじゅう (P8, 9) ○大小比較 ・具体物・半具体物を一対一に対応させて ・「10といくつ」の「いくつ」の部分をはかる (P10, 11) ・ドットのあるカードで (P12) ・具体物で2位数と1位数を比べる (P13) ・2つの数を比較して、大きいほうの数を選ぶこと (P14, 15)

ほっぷすてつぷ 各教科の段階表 (算数・数学、生活、国語)

知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標と内容について、系統性を踏まえて把握し、日々の記録や評価につなげることができるように考えて作成しました。目標設定の時にも役立ちます。算数・数学の段階表では、学習指導要領の各段階に合わせて、☆本の解説から抜粋した各題材の指導内容を載せています。

子供・先生・家庭・地域
**ただ学校のお役に立ちたい、
 それだけで研究やっています！**
 浜田教育センター
 研究・研修スタッフ/教育相談スタッフ

今年の浜セの研究も、 けっこう、ええよ!!

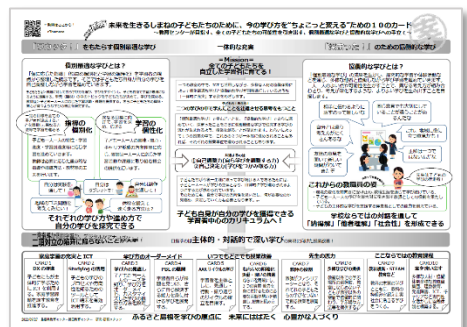
詳しく知りたい?
 じゃあ、センターの教育
 研究発表会のライブ配信
 があるじゃん!

島根県教育センター浜田教育センターの今年度の研究についてお知らせします。

研究・研修スタッフがR3より研究をおこなっている「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する一考察」は今年度でまとめの時期となりました。また、教育相談スタッフの共同研究は、今年度より「学校現場を支える教育センターの役割～オンラインを活用したコンサルテーション」に取り組んでいます。2つの研究が先生方・子供たちにとってよりよい情報となることを目指しています。

研究・研修スタッフ「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する一考察」

今年度は、学校でどのように「個別最適な学び」を捉えるかを、出前講座や各地区の研修でもお話しする機会をいただきました。そこでの意見を参考にして研究を進め、具体的に知りたいことを1枚のリーフレットにまとめました。(3月末には各校に配付予定です) →



教育相談スタッフ「学校現場を支える教育センターの役割～オンラインを活用したコンサルテーション」

「コンサルテーションって、遠いセンターに行かなきゃできないの?」
 いいえ、できます、叶えます! 学校の不安を解消し、オーダーメイドの相談に応えることができるよう、研究を進めています。今年度は広島県にある「不登校支援センター“スクールS”」等にも視察に行っています。

